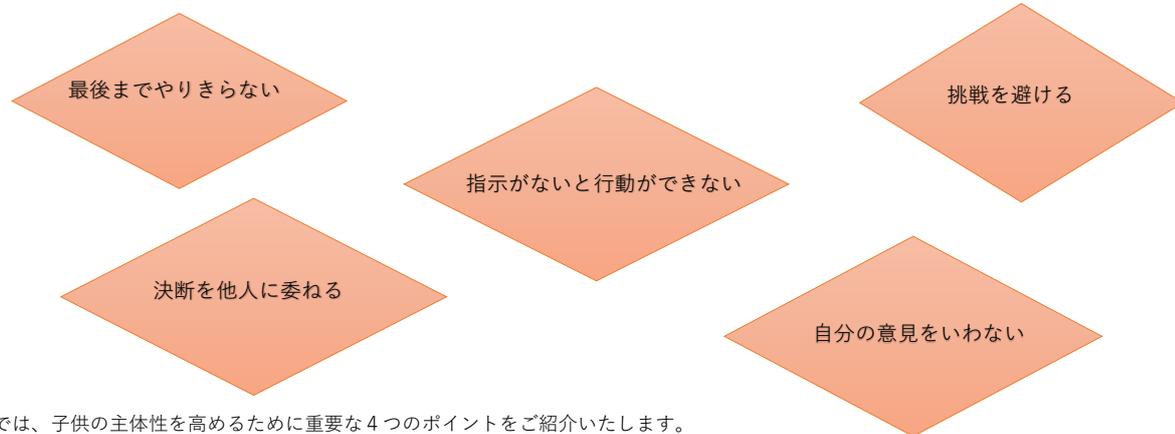




# 私なら高い壁を 乗り越えられる



新しい事ってわからない状態から始めるので、難しい事ばかりで何度も苦戦する場面が見受けられると思います。高い壁が立ちほだかると投げ出したくなることもあるかもしれませんが。高い壁が立ちほだかっても、めげない・あきらめない心を育むにはどのようにしたらよいのでしょうか。4～6歳になるとそうした物事への興味関心、知的好奇心が高まり、「やってみたい」「できるようにになりたい」といった動機が芽生えます。子供の主体性を高めることによって、成長意欲が学習意欲、自分で意思決定をして判断する力が養われ、より豊かな人生が送れるようになります。では、主体性が低くなるこういった特徴が現れるのでしょうか。



では、子供の主体性を高めるために重要な4つのポイントをご紹介します。

### <1>子供のやりたいと思うことをやらせる

子供が「やってみたい」「行ってみたい」「食べてみたい」と思ったことに関して、好きなようにやらせてあげることが効果的。子供のやることなすことに口出しをして、行動を制限し、考える余地を与えないという状況は、成長意欲や学習能力の低下につながります。実際に失敗しなければわからないことの方が多いので、自由にさせてあげの中で失敗経験をすることで、物事を理解していきます。

### <2>「自分ならどうするか？」を子供に考えさせる

何か困ったことがあったとき、友達を喧嘩をしてしまったとき、母親に叱られたとき、「なぜそうなったのか？」を子供が自分で考える必要があります。なぜ母親に怒られたのか、という原因が解決されないまま、許してもらおうという要求だけを押し通すと同じ間違いをくり返して母親に叱られてしまうかもしれません。そうならないためにも、子供に「なぜこの状況になったのか」「どうすべきなのか」を考えさせて問題と向き合う辛抱強さを習慣化するトレーニングが大切です。

### <3>オープン・クエスチョンを意識した会話を心掛ける

「はい/いいえ」で答えられる二択の質問形式ではなく、5W1H(誰が、いつ、どこで、なにを、なぜ、どのように)を意識した回答を得られる質問をしましょう。「〇〇ちゃんと」「楽しかった」と一言二言で回答できる、あるいは会話が終わってしまう質問ではなく、ざっくりと「どうだった?」と聞いてみます。オープン・クエスチョンを子供との会話に取り入れることにより、より多くの情報を相手から引き出すことができるのです。さらに、時系列を考えながらどうすれば相手に分かりやすく伝わるのか、を頭の中で整理しながら話すスキルも身につきます。

### <4>クラブチームに入部する

両親や学校の先生、友達以外の接点を増やすことによって、新たなコミュニティを形成することができます。学校以外で人と関わる場を持つことによって、より多くの人の価値観に触れることができ、他者理解や思いやりの心を生みます。



<4>クラブチームに入部するは、もうイトマンに通っているのです、達成できています。イトマンでは、1クラスに様々な年齢のお子様が集まっています。様々な年齢が同じクラスと一緒に水泳を学ぶことは、主体性を育てるだけでなく、良い刺激となり他の部分の人間性も成長させ、良い影響を与えることとなります。イトマンの先生は、様々なお子様と多くのコミュニケーションをとるように心がけています。「今日は幼稚園で何したの」、「今日は学校どうだった」といった質問をしている先生ばかりです。そういったコミュニケーションにより主体性を自然と育てています。



1つ壁を乗り越えられると自分に自信がつき水泳が楽しくなります！頑張ることが楽しくなります！！  
焦らずに頑張れるよう、諦めずに努力ができるようたくさん褒めてあげてください！！！！